

# 第1回富山市総合計画審議会「第1回 人材・暮らし部会」 議事録

日時：2015年10月6日（火）14:00～16:00

場所：富山市役所 802 会議室

出席者：（順不同）

宮田伸朗	富山国際学園学事顧問（部会長）
江藤裕子	公募委員
齊藤裕美	富山市 PTA 連絡協議会参与
塩井保彦	公益財団法人富山市体育協会会長
館内敬子	富山市保健推進員連絡協議会会長
中西 彰	富山市公民館連絡協議会会長
野尻昭一	社会福祉法人富山市社会福祉協議会会長
見波重尋	婦中地域自治振興連絡協議会会長

企画管理部 今本部長、上谷次長、西田次長  
福祉保健部 竹内次長  
市民生活部 清水次長  
教育委員会 奥村次長  
市民病院 高田経営管理課長  
八尾総合行政センター 亀山次長

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 部会長職務代理者の指名について
4. 第2次富山市総合計画基本構想（素案）について

○資料「第2次富山市総合計画基本構想（素案）」に基づき事務局より説明。

部会長

- ・ まずは第2部の検討と課題のところでご意見、ご質問をいただきたい。

委員

- ・ P.7（1）「次世代を拓くひとづくり」の3行目に「心豊かな「ひと」を育むための環境整備が求められている」とあるが、未来志向で考えており、グローバルな時代で生きる力を持ち、リーダーシップをとれるような人材育成を図って欲しいというのは一つの視点としてある。
- ・ P.11（2）「多様な人材の育成と地域への定着」で「学校教育の充実を通して、高い教育水準を維持しています」とあるが、学校教育は高い水準だが、それが先ほどの未来志向の人材育成等、新しい時代の人材を育成できているかどうかの検証があまりなされていないのではないか。

- ・ 自分がいる短大には進学校から生徒は来ない。あまり思考せず、短絡的な行動をとる学生もいる。グローバルな世界の中でリーダーシップをとれるようなスキル、探究的な力は身につけていない。アクティブラーニング等の新しい教育についても計画の中で主要課題に入れてほしい。

#### 委員

- ・ 富山市外の住民アンケートで、富山市に対するイメージを問う設問では「富山市の教育の質が高い」という項目は低かった。県内に住む人には富山の教育水準は高いとの認識はあっても、県外へのアピールにはなっていない。
- ・ 県外に進学して戻ってくる人は何が決め手となって戻ってくるのかを考えると、それはやはり就職ではないか。本来は富山で人材育成もしいけない。リーダーを育てることも大事だが、地域に根差す教育による人材育成も重要。

#### 部会長

- ・ シビックプライド、郷土に愛着を持つ人材の育成と同時に、世界につながるリーダーシップを取れる人材の育成を図る。両方の必要性が訴えられたが、富山には高等教育機関が少ない。富山県は人材流出県と言われている。

#### 委員

- ・ 富山だけではなく、日本全体の教育方針の問題。いい点数をとっていい学校に行けば幸せになれるという教育方針でやってきた。かつて PTA 会長等をして現場を見てきたが、将来何で社会に役立ちたい、起業したい、どういう研究者になりたい等のビジョンを育む機会は非常に少ない。高校では旧国立一期校に何人合格させたかということが学校、教師の評価になっていた。それでは自己実現の夢を持つ人材は育たない。まずは小・中・高の学校、教師の意識が変わらなければならない。
- ・ アメリカやヨーロッパの大学、大学院に留学している学生は、アジアの中でも韓国や中国に比べて極端に少なくなってきた。グローバリゼーションの中で戦える起業家、科学者に日本人が少なくなるのではないかとされているが、先進国への留学生が減ったことでそれが現実となると感じている。
- ・ アメリカの経済を支えるシリコンバレーのスタンフォード大学の教育関係者に話を聞いたところ、彼らは起業する学生、いかにたくさんの報酬を得られる人材を送り出せるかで評価される。
- ・ アメリカとは違う方向に進んできた日本の教育の失われた 25 年を取り戻したい。実業家や起業家の育成という面で見ると、高等教育機関である大学、小・中・高から将来のビジョンを持った人材の育成を考えた教育のあり方を考えなければならない。富山から変えていかなければならない。

#### 委員

- ・ 富山県あるいは日本全体の高校では委員の話にあったようなことが求められているのは事実。富山県の高校の評価は有名大学への進学者数が報道され、受験競争をあおるということで見直された時期があったが、また進学者数が評価されるようになった。
- ・ 自分が現役だったころは、いい大学への進学者数が評価されるという教育のやり方をよいことだと思っていなかったが、高校生には一流な者が集まる所に飛び込むこともよいことだと言い、東京や関西の大学に送り出してきた。
- ・ 生徒たちの同窓会に呼ばれた際、高校の頃の成績とその後社会に出てからは必ずしも一致していないことがある。社会に出て成長し、鍛えていったことがその要素ではないか。

- ・ 教育というものを小学校～大学までで終わるのではなく、人生全体として、人間形成していく姿として教育を見ていく必要があるのではないかと。社会教育という場もあるし、企業における人材育成という場もある。教育というものをあまり狭い見方をしないようにしたい。

#### 部会長

- ・ 教育基本計画では人格の完成、そこから国家、社会の形成者という大きな目標を打ち立てている。そこから具体的におろしていくと、現実はなかなか難しい。富山市の教育振興計画の中でどのように位置づけていくか、さらに上位計画なので、どのように盛り込んでいくかが課題。

#### 委員

- ・ 小学校では地域活動に参加している児童が多い学校ほど成績がよいというデータがある。逆に地域活動への参加児童が少ない学校は家庭環境が様々で偏りがあり、成績もあまりよくない。地域と学校の役割というのは少なからずあるのではないかと。
- ・ 中学校では部活動をしている生徒数が多いところはやはり成績もよいので、部活をやっているから成績が落ちることはなく、気持ちの切り替えができるということ。必ずしも全てではないが、傾向としては言えるので、参考にしていただければ。
- ・ P.3（1）「行政サービス」に記載されている公共的施設の統廃合の整備についてだが、公共的施設の統廃合の中で、防災関連施設についてはうまく調整しながら進めていく必要があると考えている。

#### 部会長

- ・ 公共施設の見直しを進める一方で、災害拠点、機能をどのように確保していくか。

#### 委員

- ・ 仮に統廃合と現行の施設の活用で言えば、防災機能を持たせた公共施設の作り方を考えるのも一つではないかと。

#### 部会長

- ・ 安全安心の視点で地域の公共施設のあり方を考える。

#### 委員

- ・ 指定の避難所には学校があるが、地域の人口と施設の規模が合わない。市の担当者に学校の敷地面積を単純に案分した結果だと聞いて、それはそれでしかたがないことだと思ったが、実際に災害が発生したときにどこに避難すればよいのか。

#### 部会長

- ・ 「誰もが自立し安心して暮らせるまちづくり」という施策の大綱とも関連してくる。
- ・ 続いて第3部の施策の大綱をつめる形で進めたい。

#### 委員

- ・ 主要課題（1）～（11）までと施策の大綱とのリンクが分かりにくい。
- ・ 例えば人材・暮らし部会の大綱を見ても、どの課題に対しての施策だという構成ではないのか。

#### 事務局

- 他の部会からもつながりがわかりにくいと指摘があった。
- 縦割りの計画にはしたくない。色々な分野が交錯するものにしたい。例えば教育だけではなく、生涯学習や文化につながっていく。全体が出来上がったときには交錯した形になる。現時点では課題を大きく分けて、その課題に内在するような対応策の中で細かな施策が、他のところに

も該当するようになっている。

## 部会長

- ・ 少子高齢、人口減少はすべての課題に係る。

## 委員

- ・ 総合計画はどこの行政もよくできているが、読み終わってからところで何をするのか、となる。課題に対する数値目標が必要。

## 事務局

- 次の基本計画の体系の中で施策の目標、成果がわかる指標をいかに作れるかが課題だと考えている。
- 行政の施策というのは具体的な数値としての成果が見えにくく、活動自体が指標になりがちで、成果指標になじまないものが多い。
- 総合戦略でも指標を設けて PDCA サイクルをまわしながら、検証して前へ進めている。総合計画も検証という面では同様に指標を意識しながら、次の基本計画の部分では各部局で悩んでもらいたい。
- 大綱のところ、主要施策は表題だけしか記載していないが、実際の基本計画の中身では考えられる事業の例を挙げながら、数値目標をあげていきたいと考えている。例えば今の計画の中で、健康づくりの分野については市民アンケートの結果の数値を使って検証する。今は基本構想の段階なので、網羅的、概念的な内容なので、ここから細分化していく。共通認識を持っていただいた後で、基本計画の中で具体的に検討したい。

## 委員

- ・ P.15 の基本目標（1）「すべての人が健やかで安心して暮らせるまち」の中に「それぞれのライフステージにおいて多様な学ぶ機会を提供するとともに」とあるが、生涯教育のことだととらえてしまう。学校教育という記述がないのが残念。
- ・ 「子どもたちがたくましい体と豊かな心を持ち、自ら学ぶ力を育成できる環境を整えます」の一文を加えていただけたら。
- ・ 「安心して子どもを産み育てる」と言ったら大人に対してのみの計画という印象を与える。子どもたちのためにというものは見えにくいので「子どもたちのための環境整備」ということを加えていただきたい。

## 委員

- ・ 大綱の政策 2（1）「スポーツ・レクリエーション活動の振興」だが、スポーツ人口が減っていると感じる。若い世代が育たない。地域のイベント等へも積極的に参加される方は少なく、身近にスポーツをするという環境が整っていない。スポーツクラブ等はあるが、幅広い方が参加できるような環境づくりが必要。
- ・ 年配の人は活発な方がいる。継続することが大切だと感じる。地域に密着し、地元で実施できることが大切かと思う。

## 委員

- ・ 高齢になると町内のスポーツ、健康づくりに参加しにくい。高齢者は畑があるので、働いているこ

とで健康でいる。

#### 委員

- ・ 子育て支援センターの支援員をしているが、お子さんが1人いるお母さんは2人目を考えられないという方が増えている。経済的な支援や精神的な支援が得られていないからではないか。少子化を考える場合、2人目、3人目を産まない方への対策が大事。

#### 委員

- ・ 自分が住んでいる地域は田舎なので、子どもは多い。実家も近く、助けてもらえているお母さんが多い。核家族、転勤族は支援が得られにくく子育てが大変なのではないか。

#### 部会長

- ・ 地域のつながりをつくるために支援センターがある。そこでママ友などのつながりができて、既に子どもがいるお母さんがプレママ、プレパパに子育てについて教えてあげられる。支援センターがあったから3人目を生んだという例もある。そういうつながりを広げていくにはどうすればよいか考える必要がある。

#### 委員

- ・ 今のお母さんたちには指導より、仲間内からの助言の方が受け入れやすい。仲間づくりが大事。
- ・ 初めて抱っこをするのが自分の子どもというお母さんが多い。自分の妹や弟の世話をしたというお母さんも少ない。学生たちに実習に行く前に赤ちゃんを抱っこしたことがあるかを聞いたところ、60人中3人しかいなかった。

#### 委員

- ・ 富山市は仲間づくりの赤ちゃん教室というのを開いているが、すぐに職場復帰してしまう母親が増えているので、赤ちゃんのいるお母さん同士の交流も増えにくい。
- ・ 今赤ちゃんがいる世代の親がどうやって子育てをしてきたのかが心配。

#### 部会長

- ・ 学校と地域のつながり、地域の人たちと子どもたちがふれあう体験、例えば14歳の挑戦、高校生の育児体験、介護体験等の事業をもっと広げていけるといい。

#### 委員

- ・ 今話されたスポーツ・レクリエーションに参加する人が少ないということ、子育ての問題についても、この人材・暮らし部会の「すべての人が健やかで安心して暮らせるまち」の一番の原点である最小限の地域のコミュニティへの参画意識がないということ。
- ・ 今後一人世帯が増えてくる中では、ここに書かれているすべての施策への参画意識がなくなっていく。どうやって施策に対する参画意識を持たせるかということが重要。
- ・ 政策2「いつまでも元気で暮らせる健康づくり」などは特に地域での活動への参画が重要。

#### 部会長

- ・ 課題としては協働・連携部会がどういう仕掛けを考えていただけるか。また、仕掛けを生み出すためにはこの人材・暮らし部会で方向性を促していくか。全体の部会の中でも話題にしたい。

#### 委員

- ・ 大綱の政策1施策(1)「学校教育の充実」の「教育」とは義務教育か、また、(2)高等教育の振興は、政策1の文面で「国際化、産業の高度化等に対応する人材育成・・・」とあるが、これはP.20

の産業振興に関する施策との関わるものなのか。

- ・ 大綱の政策3 施策（1）「出産・子育て環境の充実」とあるが、幼稚園・保育園やその付帯施設の整備はこの中に入ってくるのか。

#### 事務局

- 学校教育は小学校、中学校。高等教育については大学、専門学校を含むイメージ。P.20 の産業振興とも関連はあるかと思う。
- 幼稚園・保育園については出産・子育ての施策に含まれると考える。これまでは幼稚園と保育園というのは成り立ちが違っていたが、最近は一元化されている。子どもの立場に立てば幼児教育になるし、親の立場からすれば子育て支援となる。
- 雇用の方でも企業の子育て環境ということも出てくるので、活力・交流部会のほうにも関係してくる。

#### 部会長

- ・ 地域課題にこたえる地（知）の拠点としての大学のあり方は文科省の施策でも言われている。地域課題に見合った教育改革、協働研究などで地域の活性化につなげることがこれからの大学の生き残る道。富山大学や富山国際大学とどう連携していくのかも重要。
- ・ 高等学校が施策から抜けてしまいがちだが、私立の高等学校も含めて地域にある学校として、介護体験等、市の産業振興との連携も必要なのでは。
- ・ たてよこにつながって取り組みを展開されていくのが一番大事。

#### 委員

- ・ 富山市の総合計画ではあるが、学校教育といった場合、市立だけではなく、富山市民には高校生が多く含まれている現状を鑑みると、高校、私立高校を含めるべき。富山市に在住する大学生、あるいは県外の大学に通い、富山市に帰省する大学生も総合計画に関わるべきではないか。幼稚園も市立だけではなく、幅広く見てほしい。

#### 部会長

- ・ まちづくりなどのソフト事業については大学との連携は行われている。市と学生との連携について記載できるところがあれば盛り込みたい。基本計画になれば具体的な事業が出てくるので、その中で「大学との連携による」等を加えられればよい。

#### 委員

- ・ 日本全体の問題だが、高齢化が進めば認知症が増えるのが現実。高齢福祉施設では少ない人員で大勢の高齢者のケアをしている。最近高齢者福祉施設での虐待のニュースが取り上げられることが多いが、介護に従事する人たちの状況は取りざたされない。これから増えていくニーズに対して介護に従事する人を確保できるのか。
- ・ 障害を持つ方の社会参画も進められているが、現実の地域社会では許容できる力はそれほどないのではないか。
- ・ スクラップ&ビルドはいいが、中心部から離れた学校等の公共施設が統廃合後に空き施設となった場合の対応が問題になる。合併後に総合行政センターを作っていたが、これから維持できなくなっていくってどうするのか。
- ・ 計画がスタートする 29 年度の前に解決できるものは解決し、できなかったものは次の計画に引き継

いで対応していただくことを考えてもらいたい。

#### **部会長**

- ・ 人口減少の時代の中で、限られた資源を効率的に必要なところへ持っていくかということだろう。
- ・ 個別計画がそれぞれあるが、それらの中で何を強調するのかを自然体の観点の中で、重点的に関連付けながら取り組んでいくのは何かを明確にしないと総花的になってしまう。

#### **事務局**

- 次回は11月中下旬を予定している。

以上